

子持ちの主婦に特化したクラウドソーシングの「マミーゴー」(東京・港)がイベント業務をテコに事業を拡大している。荻野久美子社長(37)を奮い立たせるのは、最初の起業当初に「主婦に需要はない」と提案書を捨てられた経験だ。悔しさをバネに、設立2年半で月間売上高300万円と業績を伸ばしている。

インターネットで個人に仕事を外注するクラウドソーシング事業で主婦に特化したサービスは他にもある。しかし、マミーゴーは記事作成やデータ入力といったネット完結の事務作業に加え、イベント業務に軸足を置いているのが特徴だ。

自動車点検整備推進協議会と共同で7月に開いたイベントは、自動車点検整備の勉強会。子供を連れた女性たちがボンネットの開いた乗用車の周りに集まり、同協議会職員の話聞きながら熱心にメモをとった。

女性たちはマミーゴーに登録した子持ちの主婦11人。終了後、交流サイト(SNS)で「ママ友」向けに勉強した内容を発信した。協議会は事故を減らすための車の定期点検を呼びかけているが周知するのは難しい。母親による情報発信は大きな効

外注仕事 ママに仲介

マミーゴー社長

荻野久美子氏



イベント通じ適任者に

トップの挑戦

おぎの・くみこ 甲南女子大短期大卒業。家計を支えるため1999年に兄とデザイン設計のネットコホレーション設立。2010年ヘルリック設立。14年マミーゴーを設立した。大阪府出身。

登録者のスキルアップも支援している。「ITマミー部」と名付けた活動ではマイクロソフトなどの協賛を得て、無料研修を月2回程度開く。IT(情報技術)を得意とする登録者が増え「ママ目線」でウェブ制作やアプリ開発ができれば利用企業にもアピールできる。実はマミーゴーは荻野社長にとって3度目の起業に合った仕事を回しやすくなる。マミーゴーは社員も全員女性で、登録者である子持ちの主婦が大卒卒業する直前、父親がリストラに遭った。専業主婦の夢をあきらめ就職しなければならぬ。しかし「初任給20万円で生きているじゃない」と起業を決め、兄と空間デザイン会社を設立した。無我夢中で仕事をしながらの成長を感じ、「もっとたくさん女性の仕事を扱いたい」と考えるようになった。2010年に独立し、主婦向けオンライン教育会社ヒメルリ

果が得られると好評だ。こうしたイベントは新たな受注にもつながっている。同協議会が監修するウェブサイトの制作運営を9月から始めた。記事作成はマミーゴーに登録した子持ちの主婦が担当、給与が支払われる。荻野社長が重視するのは「コミュニティ」を通じた働き手との関係作りだ。大手クラウドソーシングは登録者と顔を合わせる事がほとんどないため互いの認識に差が生じることもある。



子連れの主婦らが自動車点検整備の勉強会に参加した(東京都北区)

業だ。1999年春に短大を卒業する直前、父親がリストラに遭った。専業主婦の夢をあきらめ就職しなければならぬ。しかし「初任給20万円で生きているじゃない」と起業を決め、兄と空間デザイン会社を設立した。無我夢中で仕事をしながらの成長を感じ、「もっとたくさん女性の仕事を扱いたい」と考えるようになった。2010年に独立し、主婦向けオンライン教育会社ヒメルリ